

IV-51

盛岡市の歩行者系街路計画

岩手大学工学部 正会員 岩佐 正章
 岩手大学工学部 正会員 安藤 昭
 岩手大学工学部 ○学生員 竹内 淳憲

1. はじめに

近年のモータリゼーションの進展により、短時間で遠距離の移動が可能となり、また、より自由な移動を可能としている。ところがこの便利さのあまり、本来徒歩や自転車でも十分移動可能な距離においてもより便利でより楽な手段を選択するようになり、自分自身の力での移動、即ち「歩く」という機会が少なくなっている。自動車が非常に高密度に存在し、城下町特有の街路形態の盛岡では歩行者系の交通の安全性、快適性が低く、このことも徒歩や自転車を選択しない理由の1つになっていると考えられる。

こうした理由から、歩行者系の交通にとって安全で、何よりも快適であり、歩こうとする意欲を高めるような魅力のある街路が必要であり、自分自身の健康のためにも歩くこと、自転車を利用することに対する関心を深めてもらうことを目的として歩行者系街路を計画する。

2. 対象路線

今回の計画における対象路線は、図1に示す路線とし、南大通を挟んで肴町側を対象路線A、大慈寺町側を対象路線Bとする。

対象路線Aは、現在の徒歩・自転車交通量はさほど多くない路線であるが、盛岡市の徒歩・自転車交通量が最も多い地区の1つである明治橋～市街地中心部の間に位置しており、実現後は中の橋通りや南大通、下の橋方面からの需要が見込まれる。また、ホットライン肴町へのアクセス路ともなる。

対象路線Bは、盛岡市の環境保全地区に指定されており小学校や多数の寺院が密集している地区の路線で、幅員が狭いにもかかわらず抜け道としての自動車交通量が多く、今後一層の環境保全が望まれる路線である。この地区周辺には、大慈寺をはじめ十六羅漢、盛岡八幡宮や青龍水、大慈清水等の清水などが点在し、観光や地域住民の散策にも利用が期待できる路線である。

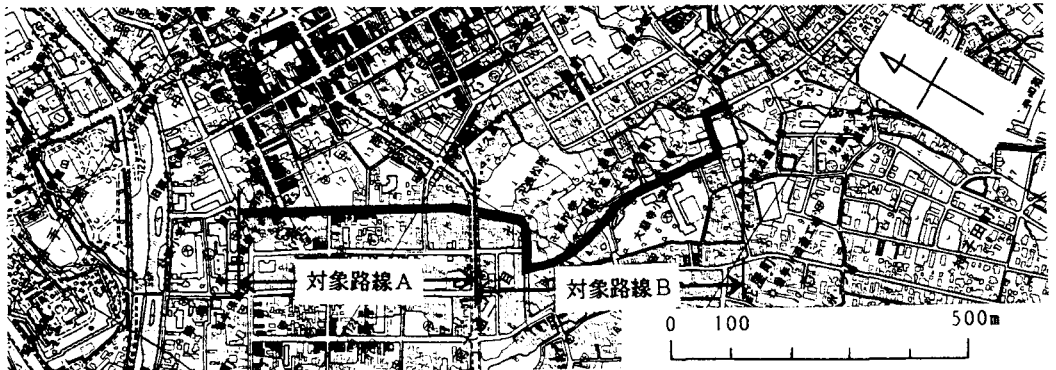


図1. 対象路線

3. 街路計画案

対象路線Aは、全線にわたり6.8mの一定の幅員で少々狭いが、特に性格が異なることがないので全線統一した設計案とすることができる。ここでは、次の8パターンを提案する。

- | | |
|----------------------|-------------|
| ①歩行者自転車専用道路（図2） | ⑤歩車共存型1（図3） |
| ②許可車のみ進入可の歩行者自転車専用道路 | ⑥歩車共存型2（図4） |
| ③朝・夕のみ自動車の進入規制 | ⑦歩車分離型1（図5） |
| ④昼間12時間の自動車の進入規制 | ⑧歩車分離型2（図6） |

①は、完全に自動車を進入禁止とし、歩行道と自転車道を設ける。

②は、自動車を進入禁止とするが許可された自動車のみ進入可とする。

③は、7:00～10:00、16:00～19:00の間、④は、7:00～19:00の間歩行者自転車専用とし、時間外は従来どおりの街路とする。

②、③、④は、いずれも特別な設計は行わずほぼ従来のままとする。

⑤、⑥は、車道幅員3.0m、路側帯0.5mずつの歩車共存型道路。

⑦、⑧は、幅員を9.0mに拡幅し、車道幅員3.0m、路側帯1.5m、0.5m、歩行者自転車道幅員4.0m(車止め、照明等設置スペース含む)とした歩車分離型道路。

⑥、⑧は、車道をループ状として通過交通を減らし、歩行者、自転車の通行の安全性、快適性を高める。

幅員はいずれも最低限必要な値であり、拡幅が可能であれば理想的であるが、土地問題などの課題もあり困難である。

対象路線Bは、区間毎に幅員がまちまちで自動車交通流も複雑であり、各区間毎に性格の異なる路線である。また、お盆やお彼岸、葬式のときには他の路線にない特有な使用のされ方をするので、完全に自動車を締め出すことは困難である。このようなことから対象路線Bでは各区間に適した形に設計することにする。

区間aとeは、自動車の進入もできるが歩行者自転車優先の道路で自動車は徐行が必要である。区間bは、最も幅員の狭い区間であるので歩行者自転車専用とする。区間cは、幅員が9m以上と広く、小学校の前であるので歩行者の安全の確保のためにも歩車分離型道路とし、車道は午前と午後で方向が逆の一方通行とする。区間bとcの自動車の通行の規制によって路線全体の通過交通は半分以下になると見込まれる。区間dは、幅員が狭いが自動車を進入禁止にする訳にはいかないので歩道を設けた従来どおりの道路とする。

4. 歩行者系街路に対する意識調査

対象路線及びその周辺の居住者とその地区での営業者を対象として、意識調査を行った。内容は、外出の実態、外出時の利用交通手段、歩行者系街路の必要性、住環境、計画案及びその規制に対する意見、商店等の経営者から見た歩行者系街路に対する意見等を問うものである。調査期間は、1月26日～1月29日である。対象路線に面している住居数38、店舗数49、アパート数4、マンション数2である。しかし、大慈寺町には高齢のため回答不能の人が多く、商店等は調査に非協力的である、調査用紙の配布時に調査内容の説明が必要であるが留守で配布できない場合が多い、等の理由により対象路線及びその周辺を含めても配布数43、回収数41であった。このため今後更に多くの有効回答票を得るべく調査を継続中である。



図2. 歩行者自転車専用道路



図3. 歩車共存型道路1



図4. 歩車共存型道路2

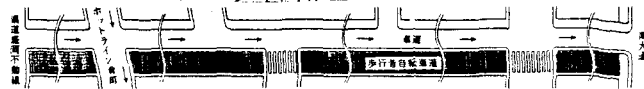


図5. 歩車分離型道路1

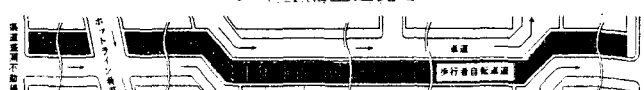


図6. 歩車分離型道路2

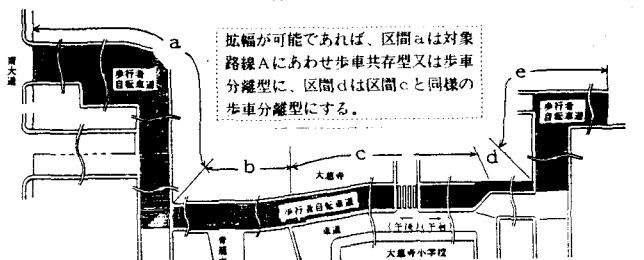


図7. 対象路線B設計案